

用地貸し、建設も援助

舞鶴市「みずなぎ学園」の分校新設

舞鶴市鹿原鎌谷、精神薄弱者授産施設「みずなぎ学園」(岡本四寿園長)の分校の新設計画について、同市は市有地を無償で貸し、一千万円の建設費も援助することを決めた。市内には三十一、四十人の入所希望者もいるとみられ、十年以上にわたる念願がかない関係者は大いに喜んでい

学園には自宅から通う授産施設(定員五十人)と入所の更生施設(同六十人)があるが、どちらも定員いっぱい。陶芸や組み立て加工、粉石けん作りなどの作業にも精励で、入所希望はとてまかなえられない状態。

市内にはほかに無認可の「まいづる共同作業所」(定員五十人)があり、四十六人が通っているが、こちらも手狭で、今春には十八人、来春には十五人が与謝の海養護学校高等部(岩滝町)を卒業するため保護者らが新たな施設の開設を強く望んでいた。

このため市は建設地として野村寺の市立高野小跡地のうち千四百七十平方メートルを無償で貸して、応援することにした。学園は、鉄骨平

屋建て四百八十平方メートル、収容数三十人の通所授産施設を建設、事業費一億一千六百二十万のうち半額を国や府の補助が受けられ、平成二年四月の開校をめざす。市はこのための予算措置を六日から始まる市議会に提案する。

昭和五十一年、開所して以来、施設の増設を強く訴えてきたみずなぎ学園の岡本園長は「西地区では初めて、西地区から通うのに大変便利になると思う。完成すれば『みずなぎ高野学園』と名付たい」と話している。

1989年(平成元年)10月24日

市内の4福祉施設

卓球バレーで交流

広がる親善の輪



卓球バレーを楽しむ参加者たち

市内鹿原、精神薄弱者通所授産・入所更生施設「みずなぎ学園」(岡本四寿園長)で二十二日、第三回卓球バレー

親善交流試合が行われ、同園と、近隣の三福祉施設から五チームが参加して熱戦を展開した。

親善交流試合は、卓球バレーを通じて福祉施設間の交流をはかろうと、ことし三月、みずなぎ学園と安岡の身体障

害者療護施設「こひつじの苑舞鶴」で初めて行われた。このあと、五月に開かれた第二回交流試合には、安岡の養護老人ホーム「安岡園」も加わり、三施設の交流となった。

今回の交流試合には、さらに福来の特設養護老人ホーム「寿荘」も参加、みずなぎ学園から三チームのほか、三施設の各代表一チームの計五チームで試合が行われた。また、今回の交流試合から、舞鶴フイオンクラブ(下田克己会長)が寄贈した優勝、準優勝努力賞の三カップ争奪戦となった。

交流試合では、まず寄贈さ

れたカップを全員に披露したあと、競技を開始。バレーボール同様一チーム六人編成で卓球台の上で鈴の入ったピンポン玉を打ち合って、交流を深めた。

健康づくりにもってこい

舞鶴の3施設 卓球バレー親善試合開く

熱のこもったプレー展開

舞鶴市内の三つの福祉施設園の人たち。みずなぎ学園の人たちが六日、卓球バレーの初の親善試合を開催。交流の輪をひろげた。

試合をしたのは、同市鹿原にある知恵遅れの人たちの授産・更生施設「みずなぎ学園」、安岡にある身体障害者療護施設「こひつじの苑舞鶴」と養護老人ホーム「安岡」。

卓球バレーを楽しむ施設の園の人たち。周りからは盛んな声援と拍手がとんだ。

春から練習を続けていたみずなぎ学園とこひつじの苑選手たちに比べ、平均年齢十八歳という安岡園のお年寄りたちは、はじめはなかなか思うように手が動かなかつが、慣れるに従って元気に「腕の運動」「腕の運動」になり、真剣になれるので健康づくりにはもってこいとおじいさんもおばあさんも熱のこもったプレーをみせていた。

産 経 新 聞

